

平和と友情をテーマに 第35回 FF世界大会 広島

2012年10月31日(水)～11月2日(金)の3日間に亘って、FFの世界大会が広島で行われた。奈良クラブからは大西会長、内田副会長、佐々木事務局長、河村理事、中森理事の合計5名が全プログラムに参加、それ以外に21名がガラパーティーに参加した。

世界28ヵ国から総勢450名参加の大きな大会となり、大成功裡に3日間の予定を無事終了した。今回は特に日本での開催という事もあり、日本の各クラブから約270名の人達が参加する一大イベントとなった。

世界初の原爆体験都市である広島は世界平和を目標に掲げるFFと基本理念を共有しているという事もあって、スケジュールの中に平和を祈るプログラムが随所に盛り込まれており、通常の世界大会とは異なる雰囲気の中で行われ、多くの参加者に感動を与える格別な大会となった。



Creating a
World of Friends
that becomes a
World of Peace



プログラムの概要

- | | | |
|-----------|----|---|
| 10/31 (水) | 午前 | 地元高校生による和太鼓で開幕
広島県副知事による歓迎の挨拶
FFI 理事 余村とこ氏の挨拶
Sherry Mueller 女史基調演説
(アメリカ合衆国外国訪問者協会理事長) |
| | 午後 | 9分科会に分かれてのワークショップ |
| | 夜 | カラオケ パーティー |
| 11/1 (木) | 午前 | 広島市副市長の挨拶
原爆体験に基づく特別講演 森川広島C会長
原爆問題に関する特別講演
広島平和記念財団理事長 Steven Leeper 氏 |
| | 午後 | 8分科会に分かれてワークショップ
原爆体験記朗読
平和公園及び広島平和記念博物館ツアー |
| | 夕刻 | 灯籠流し |
| 11/2 (金) | 午前 | 日本舞踊披露に引き続いて閉会式 |
| | 午後 | オブショナル ツアー |
| | 夜 | ガラパーティー |
| 11/3 (土) | 終日 | オブショナル ツアー |

Workshop

世界大会のプログラムの中でかなり重要な位置を占めるワークショップは、2日間にわたり、17分科会に分かれて、極めて幅広い分野からテーマが取り上げられた。それぞれの分科会ごとに2名または3名のゲストスピーカーがプレゼンテーションを行ない、発表後の質疑応答も活発に交された。

英語圏の発表者が多い中で、奈良クラブの大西会長は2日間にわたって2つのテーマについて発表し、たいへん好評だった。

奈良からのメンバーはいくつかの分科会に分かれて参加した。

日本文化体験



着物の着付けは、日本の多くのクラブが受入れ時に行っている行事の1つだが、ここではミニステージを作って、ショーの形態で着付けのプロセスを見せていた。奈良クラブにも参考になった。

「日本の伝承遊び」のコーナーでは、外国の方たちが、お手玉、独楽、剣玉などを試して楽しんでいて、人気のコーナーになっていた。



ブラウン会長とQ & A

「インターネットやメディアを使い新しいプログラムで交換を提示する。しかし決して単なる旅行クラブになってはいけない。あくまで人と人との交換で、買い物や観光だけに走らず、その国の文化を正しく理解する“文化大使”としてのプログラムであること。例えば“テーマ別交換”では、英語教師の語学交換、世界の料理、ガーデニング等。来年は“コロラドのアドベンチャー交換”も予定されている。これらのプログラムが、新しい会員をリクルートするきっかけになる」とBrown会長が力説。この際、各国からバラバラに参加するのではなく、EDの統率力が重要。交換の前に訪問国のどこかで集まって前泊した成功例も発表された。



(英語圏の発表者が概ね早くで聞き取りにくい中で、Jeanさんはゆっくりと、英語圏外の参加者にも解りやすく話されていたのが印象的だった。)



大西会長が 2分科会で プレゼンテーション

<発表の要旨>

「クラブの成長戦略」 New Strategies for Club Growth(1日目)

- ・奈良クラブは2006年以降、グループ活動を導入し、会員が5つのグループのどれかに参加することを原則にした結果、今では80%以上の会員がアクティブメンバーになり、月例会の参加率もつねに50%を超えている。
- ・会員は互いに会う機会が多くなると、会員同士の平素の交流がスムーズになり、大多数が積極的に受入れの行事に参加協力するようになった。
- ・クラブ活動への参加は結果的に会員の質の向上と会員数の定着にもつながっている。
- ・将来的な課題は若い会員の増強で、いまこれに取り組んでいる。

「独自の受入れプログラム」 New Hosting Program (2日目)

- ・これは、受入れ日程を前半と後半の二つに分け、中間に京都観光を2~3日挟むという、いわゆる「中抜きプログラム」のこと。これはホストとアンバサダーの両方にリラックス期間となる。
- ・アンバサダーの誰もが観光を希望する京都へ奈良から約40分という立地を生かし、その期間はなるべくデーホストが交代で出向いてアテンドする。宿泊やスケジュールは経費の合理化を考えて予め提案しておく。いままで受入れしたすべてのクラブで好評で喜ばれてきた。
- ・はじめてホストとして受入れをする会員は、前後半のどちらかだけの短期間で気軽に経験してみることができる。
(質疑応答では、ユニークな取組みに多くの参加者が興味を示して質問が続出。活気ある分科会となった)

メディアの活用

マニトバのアンバサダー、BarbaraさんやJeanさんも分科会の発表者だった。

Jeanさんの報告は、マイナス30度になるマニトバ厳寒の冬に、オーストラリアから受入れをした際、6のTV局、10のラジオ局、2つの新聞社、4のコミュニティ新聞に受入れの計画を伝えたことについて報告。

1週間はどこからも反応がなかったが、到着時数社からの取材があった。その後、TVのローカルが毎日のモーニングショーで、ラジオでは5分間のインタビューで交換の様子を伝えた。また、新聞では大きな紙面で報道された。このようにメディアを使用しFFの活動を多くの人々に伝えることができ、新入会員も増えたと報告された。

世界平和への祈り

“平和と友情”をテーマに掲げるこの大会の中でも、第2日目は“Hiroshima Day”と銘打って、原爆被災地の広島市で世界大会を開催する意義を確認するイベントが盛り沢山だった。



平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に献花する G.ブラウン FFI 会長(右) と森川 F F 広島クラブ会長(左)。

被爆者である森川会長は2日目の会場で自らの被爆体験と世界恒久平和の強い願いを語られ、参加者全員感動のスタンディングオベーションで応えました。



原爆症で死亡した佐々木禎子が自らの延命を祈って作ったことから平和のシンボルにもなった千羽鶴。全国からの鶴とともにFF奈良の千羽鶴も「原爆の子の像」の場所に納められました。



広島被爆者を慰霊する灯籠流し。毎年8月6日恒例の行事ですが、この日は外国の名前を記した灯籠もたくさん原爆ドームの近くから元保川の流れ下って行きました。

世界大会への参加はとても意義深いものでした。まず私は下手な英語に臆すことなく多くの外国の方々と交流しようと決めました。昼食の時も日本人の少ない席を選び、そこでドイツ Braunshwig-peim クラブの会長夫妻と話す機会を得ました。奈良クラブのバッジもたくさん持参して交換しました。もちろん、日本の他クラブの方とも交流し、面識のある方は再会を喜び合いました。3日間のうち広島デイが特に印象深く、FF世界大会が広島で開催された意義を強く感じました。また、大西会長のプレゼンも素晴らしく、奈良クラブの活動を世界の人々に知らせることが出来たのではないかと感じました。FFのメンバーというだけで世界の人々とこんなに心許し合えることに驚きを隠せません。 内田 堯子



奈良から後発の19名を乗せたバスも到着。先発の5名と合流し、広島に次ぐ参加者数で、いざガラパーティーへ。



こも樽の上蓋を勢いよく割る日本伝統の鏡開きでパーティー開宴。

Gala Party



「またお会いしました」 再会したカナダ・マニトバのアンバサダー達と。



民族衣装の女性も多く、国際色豊かな会場では、お互いにカメラで写し合う場面があちこちで。インドネシアの民族舞踊で喝采を浴びた女性（アルフィンさんの娘さん）はひっぱりだこ。



ところ狭しとみんなで踊る。ダンスに言葉の壁はありません！



FF奈良会員の年1回の親睦旅行は今年で3回目。もうすっかり定着して、待ち遠しいイベントになりました。今年も広島世界大会の後、総勢25名が宮島、大崎上島、竹原と、瀬戸内海のさまざまな美しい表情を満喫してきました。内輪だけになってリラックスしたところで、ちょっと羽目をはずすのもこの旅行の楽しみの一つなんです。

FF奈良 親睦旅行

安芸の宮島



海岸の松林で、後ろに弥山を見上げ、波静かな海の対岸に広島を見晴らす眺めに、しばし足を止めました。



史跡めぐりもいいが、食べ歩きはもったいない。食べ歩いて昼食を済ませました。

日本三景の一つ。さらにいま放映中の「平清盛」ゆかりの地とあって、フェリーで渡った宮島は賑わっていました。青い海に浮かぶ赤い大鳥居、厳島神社をはじめ史跡豊かな世界遺産の島を4グループに分かれて散策。

ここには、紅葉まんじゅうのほかにも焼き牡蠣、あなご、など“うまい名物”がいろいろあって、表参道商店街はあちこちの店で長い列ができていました。



大崎上島



再びフェリーで大崎上島へ渡って、小高い丘の上のきのえ温泉へ。この露天風呂から瀬戸内の島々の眺めはまさに絶景！夕日の美しさが有名ですが、秋の日はつるべ落とし、名残りの夕焼けだけ見られました。いよいよ宴会がはじまり、お抱え芸能プロダクションのおかげで爆笑の連続。圧巻は「ロミオとジュリエット」の演技コンテスト(写真)で、いずれ劣らぬ熱演が続きました。

安芸の小京都と呼ばれる竹原は、江戸時代に良質の塩で栄え、酒造も盛んだったようで、当時をしのぶ町並が残っています。白い漆喰の壁、格子戸、竹細工、昔の郵便箱なども。タイムスリップしたそぞろ歩きの中で、女性はいっついお買い物に引き込まれ予定時間オーバー。でもその価値はありました。

竹原



竹鶴酒造の邸が酒資料館になっていて、酒器や酒造具などを展示。試飲もでき、また食事処や土産物店も昔の佇まいそのままに、去り難い雰囲気でした。